

課題 「雪」

「あま天や夜が神みは知らない」

人物

牧原千鶴	牧原徹也	牧原あゆみ	牧原大地
(36)	(48)	(4)	(21)

大地の継母	大地の父親	大地の義妹	大学四年生
-------	-------	-------	-------

○アパート・外観

年季の入った古いアパート。周りの木々は葉が一枚もなく寒々しい。

○同・牧原家・中

玄関から出かけようとしている牧原徹也（48）と牧原千鶴（36）。その二人をジャージ姿で見送っている牧原大地（21）。

大地、欠伸をしながら眠そうに

大地「二人とも今日、帰るの遅いんだっけ？」

徹也、靴を履きながら

徹也「ああ。今日と明日は取引先と打ち合わせだからな」

千鶴「私も今週はちよつと忙しいんだ。ごめんね、大地くん、あゆみを任せちゃって」

大地、振り返る。

居間では牧原あゆみ（4）が寝ている。

大地「いいよ、暇だし。こうも寒いと出かける気にもなれない」

徹也「四月から社会人なんだからピシッとしろよ」

大地、聞き流すように

大地「行ってらっしゃい。新婚さん」

千鶴、照れながら

千鶴「もうやめてよ。大地くん」

徹也「じゃあ留守を頼むぞ」

部屋を出て行く、徹也と千鶴。

大地、伸びをしながら居間へと行く。

居間ではあゆみが熟睡している。

大地、あゆみのそばに座り、あゆみの

はだけた布団をかけ直してやる。

居間の隅には真新しいスーツとビジネス

バッグが置かれ、それを見つめる大

地。

大地「もつと手こずると思ったけどなー」

大地、バックを取り中からファイルを取

り出し、会社パンフレットを手に

取る。ファイルの中にはギッシリと書

かれた履歴書も見えている。

パンフレットを流し見している大地。
するとあゆみが大地の袖を引っ張る。

大地「お、起きたか」

あゆみ「……ママは？」

大地「お仕事」

あゆみ、不満そうな顔で起き上がる。

大地、それに気付きながら苦笑して

大地「メシにするか。お腹減ったろ」

○同

居間の中央に座卓を置いて、朝食をとっている大地とあゆみ。テレビは週間天気予報を映しており、全国的に晴れマークが並んでいる。
あゆみ、器用にスプーンを使って小さなオムレツを食べている。

あゆみ「ねえ、大地」

大地、パンを食べながら

大地「お前、そろそろお兄ちゃんって呼んだら？」

あゆみ、気まずそうに黙る。

大地、それを見て笑いながら

大地「うーそ。大地でいいよ、何？」

あゆみ「ママ、明日はお休みかな」

大地「んー、忙しいとは言ってたけど」

あゆみ「……」

大地「なに、明日なんかあるのか？」

大地、壁に貼ってある十二月のカレン

ダーを見る。

大地「明日は、八日か」

あゆみ「誕生日」

大地、表情を固めて

大地「……え？」

あゆみ「私の誕生日」

大地「マジで？ 十二月八日なの？」

頷く、あゆみ。

大地「いやあ、さすがに覚えてるんじゃない」

大地、考えて不安そうな顔。

あゆみ、それを見て泣きそうになって

いる。

大地「ああ泣くな泣くな。大丈夫だよ、きっとすごい誕生日プレゼント用意してるって」

あゆみ「いらない」

大地「いらないの？」

あゆみ「ママ、いつもいないから一緒にいたい」

あゆみ、食事を再開する。

大地、スマホを手に取るも悩む。

大地「連絡するのもなあ……」

大地、黙々と食べるあゆみを見て

大地「去年は一人だったのか？」

あゆみ「保育園だった」

大地「そっか……まあ今年は少なくとも俺はいるけど、来年は」

大地、掛けられているスーツを見つめる。床には会社のパンフレット。

あゆみ、落ち込んだ様子で食事を続けている。

大地「そうだ。じゃあお願いごとに行くか」

あゆみ、反応しない。

大地、あゆみの気を引くように

大地「天夜神っていう地元の神さまがいてな。

俺があゆみくらいるとき、母さ…ああい
や親父とよく行ったんだ。お願いすればき
つと明日の誕生日はあゆみの望むよう
になるさ」

顔を上げるあゆみと顔を合わせる大地。

あゆみ、じつと大地を見つめて、ぱつ
と笑顔になる。

あゆみ「するっ！ 神さまにお願いごと」

大地、ほっとしたように

大地「よし。じゃあご飯食べたらおでかけす
るか」

あゆみ、急ぐように食べ始めてご飯を
零しまくっている。

大地「あーあー、ゆっくり食べなさい。ゆっ
くり」

○道

住宅街を歩いている大地とあゆみ。

空は快晴で雲一つなく澄んでいる。大地、空を見あげて

大地「寒くなければ最高の天気なんだがな」

あゆみ「ねえ、神さまどこにいるの？」

大地「少し行った先に神社：：あー神さまのお家があつてな。そこにお参りしに行くんだ」

あゆみ「ふーん」

大地「あゆみはなんてお願いする？」

あゆみ、考えて

あゆみ「ママとパパが明日、一緒にいてくれますようにする」

大地「おかしくない？俺は俺は？」

あゆみ「大地はどっちでもいい」

大地「親父と扱いの差がすげえな：：」

大地、企むように笑って

大地「大地さまをいじめる奴はこうしてやる」

大地、あゆみを担いで肩車をして走り出す。

喜ぶ、あゆみ。

大地「うりゃー」

走る速度を上げる大地。

さらに喜ぶあゆみ。

○天夜神社・境内

鳥居をくぐり、あゆみを肩車した大地の二人がやってくる。

神社は本殿があるだけのシンプルな神社。人は誰もいなく寂れた様子。

大地、あゆみを降ろす。

あゆみ、神社の人気の無さに怯えている様子。

大地「懐かしいな。ガキのときにはよく遊びに来てたっけ」

大地、本殿に歩み寄る。

あゆみ、怯えながら置いて行かれないようについていく。

大地、本殿前で財布から硬貨を出して賽銭箱に放る。

あゆみ「私もそれやりたい」

大地「はいはい。お姫様」

大地、硬貨をあゆみに渡すと、あゆみを持ち上げる。

あゆみ、硬貨を投げるとギリギリ賽銭箱の縁に当たって入る。

大地「セーフ」

あゆみ「セーフ」

大地、手を合わせて眼を閉じる。

あゆみ、大地を見て真似するように手を合わせる。

大地、眼を開けると、あゆみはまだ眼を閉じて手を合わせている。大地、それを見たあと、本殿を見つめる。

大地「頼むぜ、天夜神様」

あゆみ、眼を開けて

あゆみ「お願いしたっ」

大地「よし、じゃああとは神さまに任せるか。

帰ろ」

手を繋いで境内を後にする、大地とあ

ゆみ。

誰もいなくなった本殿が不気味に二人を見送っている。

○アパート・牧原家（早朝）

大地、あゆみ、徹也、千鶴が居間で四人並んで寝ている。閉められたカーテンからは白い光が漏れている。

大地、ふと眼を覚まして起き上がりカーテンを開ける。

外は大雪で一面が銀世界と化している。

大地、呆然としたあと急いでテレビを点ける。日本中が原因不明の突発的な大雪と騒ぎになっており、交通機関が完全に麻痺と出ている。

大地、再び窓の外の雪景色を見つめて苦笑する。

大地「……叶え方、雑じゃないか。天夜神様」